

霊の癒しとなる痛悔機密について、私たちは理解不足の為に恩恵を実感できないことが多々あるようです。そこで昭和56年頃正教時報に掲載されました、故コルニリイ西海枝神父「翻訳の「少年・少女のための痛悔の手引き」を何回かに分けて転載させていただこうと思います。分かりやすく、またなにより痛悔とは子供のように自分を低くして神さまにすがることですから、大人の方にとってもたいへん有意な読み物と思います。

少年・少女のための痛悔の手引き(1)

コルニリイ 西海枝 裕 訳

1 「両親へ」

あなた方のお子さんが悔い改めの機密である痛悔に今年初めて行くとしましょう。「両親はこのすばらしいできごとの意味を理解し、その準備のためにお子さんの手助けをすることが何よりも大切です。

(1) なぜ痛悔機密が必要か

わたしたちは洗礼によって与えられたクリスチャンとしての

生活の恩寵に背いたり、これを受け入れないというような罪を絶えず犯しているからです。このような罪はわたしたちを神から遠ざけ、心を暗くし、意志をゆるがせ、情欲、気まぐれ、誘惑の奴隷にします。そして清潔になるために身体を洗うように、わたしたちは神の前に自分の罪を認め、痛悔し神の赦しを受け、神や他の人々と和解して「新しい出発」をしなければなりません。

(2) 神ご自身にだけでなく、司祭に罪を痛悔するのはなぜか

わたしたちは教会から、教会を通して神について知り、神の戒めを悟り、救いの恩寵を得、新しい生命の喜びを受けられます。教会を代表するのは司祭です。司祭は叙聖によって「縛ったり解いたりする」力を受けました。ほんとうの痛悔は、はずかしいという心にうち勝つことから始まるのです。司祭はわたしたちの気付かない罪を見つけ出す手助けをします。司祭はハリストスの名によってわたしたちの罪を赦し、わたしたちを教会と一致させることができます。最後に、わたしたちが正しい生活を送ろうと心に決めたならば、司祭は神の道へわたしたちを導かねばなりません。

(続く)

(3) **痛悔の準備をどのようにすればいいか**

わたしたちの毎日の生活、考え方、行い、欲求、想像をハリストスの戒めの光に照らして評価し、自分の罪に気づかせて下さるように神に願う。たとえば、悪い行いを悔い、それを改める決心をして生活の向上につとめます。そしてわたしたちの心を究極の目標と生命の意味を考えることに専念させます。つまり神との交わりによる、神とともにある永遠の生命のための救いに心を集中することが大切なのです。

(4) **最初の痛悔の特別の意味**

初めての痛悔は、子供が自分の行いについて道義的な責任を果たすことができるようになったこと。そして善悪を見分ける神の戒めを実行できるようになったことを意味します。痛悔の準備がしつかりできれば、子供たちは次のことをいつも思い出すでしょう。信者はいつも正しい道を選び悪と戦い、そのすべての行動についての裁きを神の戒めに照らさねばならないことを。

か (5) **両親はどうすれば子供の最初の痛悔の準備を手助けできるか**

子供にこれらの生活について質問をすることによって手助けができます。たとえば祈祷について、他人に親切にしているか。わがままであつたり、言うことを聞かないことはないかなどです。また、家庭の中に平和で精神の集中できる環境を築くことによつて(テレビを置かない等)、福音書から選んだ箇所を子供とともに読んでみることによつて、子供が痛悔内容をまとめる手助けをすることなどです。次の数ページにわたつて子供のための痛悔機密の手引があります。これには聖書から選んだ句が含まれており、悔い改めと罪の赦しに関する現実の大切な態度を示すものです。そのほか

に、痛悔の前と領聖前後に唱えられる祈祷文がのつています。最後に痛悔の準備と、痛悔の儀式そのもの実際の手引があります。みなさんは、みなさんの子供がこの資料を読み自分で痛悔の準備ができるようになるまで、その最初の痛悔とそれに続く痛悔の準備のための手助けをしてやつてください。